

平成30年度 第2回苫小牧市民文化芸術審議会 会議概要

日 時：平成31年3月25日（月）13：30～14：40

会 場：苫小牧市役所9階 第2委員会室

出席委員：石川委員、伊藤委員、坂井委員、佐藤委員、下川原委員

千葉委員、藤沢委員、藤本委員、宮脇委員 計9名

欠席委員：則定委員 計1名

事務局：瀬能教育部長

生涯学習課 白川課長、斉藤主査、田中主査

-
- 1 開 会 白川課長
 - 2 挨 拶 千葉会長
 - 3 議 事

(1)平成30年度苫小牧市民文化芸術振興助成事業の報告について

平成30年度助成事業のうち、主に助成金が中止、減額となった事業について事務局より報告

<主な質疑>

- 会 長 ご質問、ご意見があればお受けいたしたいと思います。
- 委 員 入場料等は収入によって助成金の確定額というのは変わってくるものですか。それとも、別の事情で変わってくるのですか。
- 事 務 局 入場料がある場合は、その分を助成金額から引いて、2分の1という形になりますので、入場料収入が増えた場合は、その分、助成金額が変わってきます。
- 委 員 入場料を取っていても、変わらないところもあるし、変わっているところもありますよね。
- 事 務 局 そうですね。予想どおりの額として収入があった場合には助成金額は変わらないです。ただ、基本的に助成金額は、支出に対して、入場料収入があった

場合には、それを差し引いた部分でその2分の1を助成しているのです。だから、収入が多いとその分助成額が下がるという仕組みになっているのです。

○委員 なるほど。わかりました。

○委員 今のご説明の中で、出演者とか講師との連絡調整がうまくいかないことで、やむを得ず中止ということがあったのですけれども、これを申請するときは、講師との調整が決まらないうちに申請を出しているのですか。

○事務局 それぞれによりますが、随分前、大分先のものの企画もございますので、ある程度お話しされていても、講師の都合も今決まらないというものもありますので、調整中ということで出しているところはございます。

○委員 未定でも出しておけば、審議して助成を出すというようなことですか。

○事務局 ある程度、目途はつけてという形で。

○事務局 要は、全く調整しないで申請を上げるということではないのです。ただ、体調面や、ほかの事業であるとか、そういうものと絡めて、やむを得ず講師と日程的な調整ができないといったケースというのは、ないわけではないです。

○委員 同じ質問なのですけれども。この助成申請を上げる前には、そのゲスト、出演者と調整はついてたということですかね。それで、その後になってから、調整がつかなくなったというのがいきさつですか。

○事務局 全くアポなしで申請を上げてきているというわけではないと。ただ、がちりこの日という確定の中で進めているかといったら、今この審議も、来年の2月、3月までの事業も含めた形で審議しておりますので、逆に言えば1年ぐらい先ですので、そこら辺が多少、予定といったところもないわけではないです。

○委員 申請者としては、このぐらいにやるのでお願いしますねという調整をつけながら、こちらのほうに申請してくるということですか。

○事務局 はい。そうです。

- 会 長 今年度まだ最終確定のしていない分については、報告は改めて委員会を開くのですか。それとも次回のときに一緒にするということになるのですか。
- 事 務 局 今のところ開く予定はしておりません。必要でしたら、次回の際にご報告という形になると思います。この2点については実施されておりますので、あとは主に金額の報告のみという形になっております。
- 会 長 わかりました。今の最終まだ確定していないものについては、改めて審議会は開かないけれども、次回のときに必要であれば報告をするということで行きます。

(2)平成31年度苫小牧市民文化芸術振興助成事業の申請について
助成事業の申請28件について、事務局より説明

- 会 長 質問その他あればお伺いしたいと思います。
- 委 員 この個々の企画書を見ますと、どれもすごくしっかりした団体であるし、内容的にレベルも高いものだなというふうに思います。そういう意味では不満は一切ないのですけれども、これは、交付要綱に沿ってしっかり勉強して、計画書を出している感じを受けるのですが、ここに出てきているのは全部、言ってみたら合格したものですよね。逆に、これに至らない内容であるとか、どのくらいあるのかと興味を持つのですけれども。
- 事 務 局 今回については、これ以上の相談は来ていません。ただ、年間を通して、申請書を出すかにかかわらずご相談はありますので、その段階で要綱などのご説明をさせていただいている場合もございます。
- 委 員 この要綱等を見ますと、平成14年からスタートしているということで、歴史があるわけですがけれども、その間で、いわゆる文化的な活動というのは、苫小牧市として増えてきているのか、そんなデータとかがあるのでしょうか。
- 事 務 局 そうですね。件数的にも、平成30年度が若干、25件ぐらいということで若干落ちたのですけれども、今回は28件の申請なものですから、だんだん上がってきています。やはり件数がふえるということは、それなりにこの助成の市民に対する理解というものも広がってきていると思いますし、我々事

事務局としては、それが文化芸術に寄与しているのではないかと感じております。平成29年のときには、予算額も380万円程度だったものを、件数も増えてきているものですから、平成30年度から450万円に上げました。平成30年度の部分では450万円まで達しなかったものですから、そのまま平成31年度は同じ額で予算要求させてもらい、予算確定しているのですけれども、今回はそれをまた超える申請になっておりますから、やはり増えてきているのではないかと感じております。

○委員 美術博物館についてお聞きしたいのですが、2番目の美術協会ですが、展示室を3つ使うので、会場費10万3,200円かかるということなのですかけれども、これは展示会場に3つ部屋を使うことでこのぐらいかかるということですか。

○事務局 そうですね。先週の土曜日に使っていた展示の会場をつなげて使うとこれだけかかってくるということになります。

○委員 13番は、コンサートをやった研修室は、会場費を要求していないので無料なのですか。

○事務局 もともと無料となっております。

○委員 審議を考え方というのをもう一度理解しておきたいというようなことで、質問させていただきたいです。この申請をするに当たって、こういった事業を考えていて、出演者は決まっていますが、大体このぐらいかかるという申請もありますよね。それについてどのように受けとめて考えていけばいいのでしょうか。

○事務局 前にも申請があった事業でしたら、以前に招聘した方と同レベルの方を呼ばれるということであれば問題はないかなという判断で、事務局としては出させていただきますので、それで問題があるようであればご意見をいただきたいと思います。

○委員 いわゆる、過去に実績がある人ですよね。もし実績がない新規の場合、こんなようなイベントをやるけれども、まだ誰が来るかわからない、というところについてはどのようになりますか。

- 事務局 その団体がどのくらい計画を立てているかによるとは思うのですが、こちらとしては全然わからないというのは考えられないので、どのような人を考えているかということは教えていただいて、ただ、まだ調整中なのでこういった場で名前が出せないということもございますので、このような人というところまでは聞きたいとは思っております。
- 委員 それをもとに判断するということですね。文化を振興するという意味合いでは、非常に大事な制度だと思うのですが、そこら辺はどのように考えているのかということを理解したいので、あえて質問させていただきました。
- 事務局 今回も、申請額が450万円の予算額を超えており、最終的に9割の助成と考えておりますことから、50万円の助成をするところに関しては5万円差し引いた45万円の助成という形を平成31年度はとろうしていますので、いつも内容を精査しながら審議会に提案させていただいていますが、今回はより一層、この金額が必要あるのかということも精査した中で、若干減った事業もあるのですよね。そういうこともした上での確定額になりますので、ある程度申請者とは詰めたような形で提案させてもらっています。ただ、これから考えるとといった部分もある団体もあります。それに関しては、今までの実績をある程度信じた中で受付をして、今回の提案とさせてもらっているとご理解いただければと思います。
- 委員 今の22番なのですが、著作権料2万4,000円ということになっているのですが、クラシックの場合、50年以上たつと、ほとんどJASRACのお金がかからないのですよね。ただ、入場料を取るときは発生するのですが、クラシックの曲数にもよりますし、そういうところもきちんと見たほうがいいのではないかと。それと、印刷代も、やはり例えば自分がコンサートやる場合に、(助成金が)半分しか出ないというところで、多めに申請したいのですよね。その辺も、きちんと領収書をとってもらいたいなと。
- 事務局 まず、JASRACは、私も細かくわかりかねますが、それぞれの団体に聞く中でこのぐらいかかりそうだとということで詰めていただいています。
- 委員 そうですね。すごく規定が細かいのですよ。曲や作曲家にもよりますし、それは私たちも意識してやるのですが、

○事務局 印刷費については、最終的には事業報告書をいただく段階で領収書も提出していただいていますので、それで確認させていただいています。

○委員 印刷費とか制作費とかを見ていたのですけれども、少ないところは4万円とかで、高いところだとデザイン料など含めて40万円にもなっているので、費用がすごい幅が広いと感じました。枚数もばらばらで開きがあるので、これでいいのかというところも見てほしいと思いました。あと、かなり会場の幅が広がったような気がしました。公共施設を使う感じのことを最初は思っていたのですけれども、ホテルや飲食店のお名前も出てきているので、これからは会場も幅広くなっていくのか、それとも、どこからどこまでが会場として助成されるのかという、場所の何か位置づけも見てほしいと思いました。

○会長 どうでしょう。ごくごく普通に、この事業そのものが、市民に、あるいは関係する人たちに大変なじんできたのだと思うのですよね。それで、かなりの件数が複数回しており、それなりの経験を積んできていますよね。そういう中で、こういう方法もあるのだと、場合によっては、外ですとか、公共の施設以外のところでも使えるということになると、ある意味では事業が発展をして、そういう面では非常にいい。逆に、初めてチャレンジしようというところは全くわからないので、これ出そうと思ったらだめって言われてくるのもあるだろうなという想像はできるのですが。もっと言えば、予算に限りがあり、今年度、申請額に対して1割程度の減額で、これしか金がないという。だとすると、この事業がどんどん進めば、来年度はもう少し予算規模を大きくしてということになっていくのだろうという、それはある意味では非常にいいことだと思うのですよね。ですから、もっと幅広に進められればいいなという感じがするのです。この事業の非常におもしろいと思っているところは、補助対象経費の50%という縛りがあるから、ここで野方図に広がっていくというものではないので、非常にいい仕組みだというふうに私は感じているのですよね。ただ、予算規模をもう少し大きくしてくれると嬉しい。この委員会でそういう声が多ければ、事務局として予算的にそういうお願いをしていくのがいいのか、あるいはこの団体の人たちからそういう声を出してもらうのがいいのか、この辺は考えをまとめる必要があるかもしれないと感じますね。

○委員 今のお話で、例えばポスター等について、非常に幅があるというような話がありましたけれども、私たちもそれに工夫するのですけれども、地元の業者

さんを使うか、外注するか、最近は非常に安い業者さんが出てきていますから、そういうところもあるし、自分たちでデザインまでやるかどうか、できなければ外注しなければならないというような、それぞれの考えとか事情があるので、例えば印刷費の上限を決められると非常に困るなという気もしますし、会場もここでなければだめですよと規制をつけていくと、これはなかなか難しい話になるなという印象を受けましたね。

○事務局 そうですね。今、いろいろとご意見をいただきまして、その印刷費の関係も今、委員からお話がありましたとおり、安く済めばそれなりに助成額も少なく済むという考え方を持っています。ただ、ポスターなどはPRになりますから、広くPRし、たくさんの方に来ていただきたいという思いがありますので、そこら辺は、その団体の中で工夫して広げていくのかなと思っています。そこを制限することによって人が集まらなくなると、大いに皆さんに喜んでいただくための助成金ですので、そこら辺はなるべく制限というのはしないほうがいいのかなと思っています。会場に関しましても、公共施設はそれなりに安いと思います。今回はホテルという話もありましたが、団体がホテルとちか合って対応しまして、ある程度下げてもらって会場を使うということも聞いております。それで、先ほど会長のお話にありましたとおり、それが100%助成となれば、多分高いところを使ってくると思うのですよね。ただ、50%負担ですから、助成以外は自分たちで持ち出さなければならないといったところもありますので、一概に高いところを使うということにはならないかなとは思っています。それで、会長さんのお話にありました最終的にその助成を広げていってということになります。我々が財政に予算要求するのが前年の秋ぐらいで、こういうふう申請が増えてきていますからということで予算要求をして、次年度の予算額を上げていただく形をとっており、平成29年度に予算を超えたときに70万円予算を増やしたのです。平成30年度は若干450万円の申請から下回った助成額になりましたので、やはり我々としても最低限450万円を確保したいという流れで来たところが、今回、平成31年度は超えてしまったと。市の財源の問題ですので、申請が多くなったから、間違いなく次年度が上がるというちょっと確約はできないのですけれども、我々は増えるような形で対応していきたいと考えております。

○会長 はい。そのほか何かご意見。

○委員 来年度は申請が多かったので90%助成で、もしこれが増えていったら、8

0%とか70%とかとなっていくと思うのですけれども、基本的には、申請されて、条件を満たすものは全て認めるような方向がベースということだと思います。審議して、ちょっともう長年続いているので我慢してとか、審議の土台に乗らないということではなくて、申請額の減額、パーセントを掛けるなら認めていくという形が基本と。

○事務局 そうですね。現時点で我々の考えとしましては、やはり申請があった中で、そのうちの何件かを減らすかという考えではなくて、皆さんにこの助成金を活用した事業を行っていただきたいという考えがありますので、できれば申請のあった全ての団体さんは受け入れ、それを平等に減額した形で対応していきたいという今現時点の考え方を持っております。

○委員 前回、道外のアーティストを受け入れるという事業があったと思うのですが、市民の税金を市外どころか道外の方にお使いするという事なので、それはウェルカムにすごくいいと思うのですけれども、それは道外に帰ってしまうわけですよね。けれども、そこに人が集まるということで、文化発展と捉えているのでしょうか。

○事務局 申請団体が道外というわけではありませんので、申請団体は苫小牧で、招聘したアーティストが道外の方でありますので、市内で道外の方が来てくれることによってプラスになるような状況であれば、受け入れていくという考え方もおかしくはないのではと考えておりますけれども。

○会長 外から来てもらうのは望ましいのではないかと。この町の中だけやろうとしたら、すごいちんまりとやらざるを得なくなることになりませんか。だけど、限度が50%という縛りは、すごくいい縛りだと思っているのですよね。その範囲でこの制度を使って、積極的にいろいろな団体がこれに挑戦をしてももらうという、非常にいいことだと私は感じているのですけれども。

○委員 逆に、市内のアーティストが被災地に行くとしてもそれは出ないのですよ。例えば市内のアーティストが頑張って向こうに自費で行くとなったときに、少しでも助成金が出ればもうちょっと頑張るのかなというのは思ったことがあるのですよ。それはちょっと気にはなりました。

○会長 ほかに特にご意見がなければ、平成31年度事業の計画内容について、皆様のご承認をいただいたということで処理してよろしゅうございますか。あり

がとうございます。

(3)その他

○委 員 1つだけ。申請を出すときに、収入とかは全然なくてもいいのですか。収入が全然なくて、謝金だけの申請でもオーケーですか。

○事 務 局 はい。

○委 員 先ほども、予算も増やしていただいている、この事業のおかげで文化振興が進んでいるなという印象を受けるわけですよね。それで、市として、今後のこういう課題があつてとか、こういう方向に進めたいとか、何かそんなものがありましたらお聞かせいただければと思いますが。

○事 務 局 我々も文化なり芸術なりということではいろいろと事業をやらせていただいております。それで、少しずつ申請も増えているから広がってきていますよというお話をさせていただきましたけれども、これがどう市民の方々に広がっていくかといったところが、本当にこの広がりです満足しているのかといったら、まだ広がっていきなげやならない部分というのはあるのではないかと考えていますので、周知する方法とか、どういうふうに広げていけばいいのかといったところは、やはり課題としてあるのではないかと考えています。あと、市の事業の中でも、招聘したアーティストの事業をどういうふうフォローアップしていけばいいかということも課題は残っているのではないかと考えております。

○委 員 ありがとうございます。

○会 長 ほかにご意見がなければ、きょうの審議会はこれで終了したいと思います、よろしゅうございますか。

4 閉会